

岸田首相、靖国に真榦奉納

新藤・高市担当相は参拝

岸田文雄首相は17日、靖国神社（東京都千代田区）の秋季例大祭（17～19日）に合わせ、祭典の真榦（まさかき）を奉納しました。閣僚では新藤義孝相が17日参拝。西村康稔経済産業相も例大祭に先立ち16日に参拝しています。

靖国神社は戦前、戦死者を「軍神」としてまつることで国民を鼓舞し戦争に動員する役割を担い、戦後はA級戦犯がまつられたほか、付属の戦争博物館「遊就館」で過去の日本本の侵略戦争をアジア解放の「正義の戦争」として描くなど、戦後の世界秩序にも反する異常な歴史観を広めて

参拝や祭奠などの奉納は、同神社と同じ歴史観に立つことを表明するものです。

新藤氏は参拝後、記者団に「国、家族のために重き務めを果たされた英靈のみなさまに

尊崇の念を込めてお参りした」と説明。記帳した扁額や玉串料奉納の有無は「私的な行為」だとして明らかにしませんでした。

首相は2021年10月の就任後、毎年春と秋の例大祭に真榦を奉納。8月の終戦記念日には玉串料を納めましたが、参拝は眞送って

きました。今回も眞榦を奉納したことと、例大祭期間中の参拝は見送るとみられます。